

結婚後十五年の妻たち とのグループセッション

家庭問題情報センター・日本女子大学 おかもとよしお 岡本吉生

本連載の97回目（第102号）で、「上手な喧嘩の仕方」をテーマにした結婚五年未満の妻とのグループセッションの様子を紹介しました。ここでは、妻は夫婦間に共通性を探しだす作業をし、その共通性が夫婦関係の凝集性となることがわかりました（同時にそれは相手の自由な行動を拘束することにもなります）。
今回は、夫婦の歴史がもう一歩進んだ、結婚して二十年が経過した妻たちとのグループセッションを紹介します。平均年齢は四十三歳、平均結婚期間は十五年です。全員で八人の妻とのセッションです（以下はそのうちの数人の発言の抜粋です）。

カ（カウンセラー） 今日は、こういうメンバーです。結婚して十〜二十年までの女性の方にお集まりいただきました。

「これまでの結婚生活でご自分がここは大事にしてきた」というところを中心に共有したいと思います。

Aさん やっぱり夫婦は長い人生を歩むパートナーだと思うので、お互い包み隠さず、自分の感じたこととか、相手に思ったこと、うれしかったこといやなことも含めて、伝えたいという気持ちがある中にはあります。

結婚して初めのころは互いに食い違っていることが多かったんです。それはやっぱり自分の意見を押し付けてきて、相手の意見を受け入れていないという状態でもありました。それがだんだん、お互い認め合うことが上手いくコッソリかなと思つた時期がありました。

最初はわかってほしい、同じ価値観を共有したいということが多く、それにパワーを注いできました。でもある時から「平行線でもいいか、他人だし」みたいに思えた瞬間があつて、それから許せるような感覚になつてきたんです。

そういう術を覚え始めたのが今の時期かなと思うんです。

Bさん すごく共感できます！（一同笑い）私、結婚して十九年目ですが、ハネムーンベイビーでしたから、結婚した時は子育てのことではいっぱいばいばいでした。ですから、相手にわかつてほしいということが前面に出てきて、喧嘩もたくさんしました。

でもここに来て、子どもにもいろんな問題があつて、やっぱり夫にも夫なりの考え方があつて、それを自分も受け入れなきゃいけないって思うようになりました。「わかつてほしい」ばかりでなくて「自分もわかんないやいけない」と思うようになったんです。

ですから、平行線でも全然大丈夫なんだなって、五年くらい前からわかりましたね。

カ へえー。結婚して最初の頃は相手にわかつてほしいというのが強かったけど、十年以上も一緒にいると、自分も相手のこと

をわからなくちゃいけないと思うようになったのですね。

相手（夫）は自分とは違う存在なんだということ、それを認めることが大事なんです。相手が自分と全部同じでなくちゃいけないと思うと、ちよつと違っているだけでそれが喧嘩の種になるんでしょね。でも、いつまでもそれではだめで、「違う人間」が一緒に暮らしていることを素直に受け入れることが大事なんです。

それって、相手と距離を取ることになるんでしょけど、ある意味、相手の人格を尊重するということでもあるんです。

Bさん ええ、夫は夫なんです。きょうだいでもないし他人なんです。やっぱいいでもないし他人なんです。

Aさん いい意味で他人というか。
Cさん でも、相手のいやなところ見ちゃつたらどうするんですか？ 見ないフリするんですか。嫌なところも認めるんですか？

Bさん うちは真正面からぶつかって、激しい喧嘩になります。子どもには見せられないような喧嘩はできないので、「出てけ！」って言われるんです。子どもを巻き込んでもやりました。

でも結局は歩み寄りがあったって、お互い出て行ったりはしません。仲直りはできません。

子どもも中学生ぐらいになって、最近では夫婦喧嘩の仲裁に入ってきます、弁護士みたくに。息子の成長を見て夫婦で感激しちゃって、喧嘩も収まる。（一同笑い）

Dさん 私の子どもはまだ小さいですし、夫はおっとり型ですから、私が一人でしゃべって、コミュニケーションにならないような感じでした。

ま、夫がしゃべらない分、夫を神聖化して家の中を整えています。二人で気持ちを確かめ合って、というのは昔話です。（一同笑い）

カ フリではなくて、やっぱ本気ということですね。

若い時の激しい感じと、結びつきを確かめるといふ段階が過ぎると、衝突の激しさに違いはあるかもしれませんが、それなりに相手らしさを認めるということですね。

それが十年以上たつた夫婦関係を円滑に整える秘訣なんです。

このセッションはさらに話が進み、夫婦が互いの差異を認めることの大事さを、妻たちは語りました。この語りに納得する妻は、それ以前の段階で夫婦間で建設的な喧嘩（開かれたコミュニケーション、互いが夫婦や家族をよくしようとの目的で意見の不一致を戦わせる喧嘩）を行い、それが

夫婦間の結びつきを強固にした夫婦に見られる共通の特徴でした。

また、相手の人格を認めることは、翻って、相手からも妻が一個の独立した人格の持ち主であることを承認されたいとの意味もありました。

気づきの多いセッションでした。

